

乳癌

女性の癌の中で最も多い病気です。20歳代の乳癌は非常に少ないですが、30歳代になるとやや増加し、45歳から55歳が最も多い年齢層です(危険年齢)。当科で乳癌検診が行なわれていますので、積極的に受けてください。専門医の指導を受けた医師らが超音波ガイド下の針生検(ABCやFNB)による診断も行っております。乳癌の治療法には1)手術、2)薬物療法、3)放射線治療があります。

1)手術:癌を取り除くために手術が必要です。最近はあまり大きくない乳癌には、乳房温存手術が標準となっています。また、腋下のリンパ節の郭清を省略するために、センチネルリンパ節生検を行っています。

2)薬物療法:内分泌療法(ホルモン剤)、化学療法、抗体療法などがありますが、手術で摘出した癌を詳しく調べたり、リンパ節転移の有無により、これらの治療を組み合わせで行います。

3)放射線治療:乳房温存療法が行われた場合には、残った乳房からの再発を予防するために放射線治療が勧められています。

当院には放射線治療施設があり、診断、手術、化学療法、放射線治療をすべて行うことが可能です。